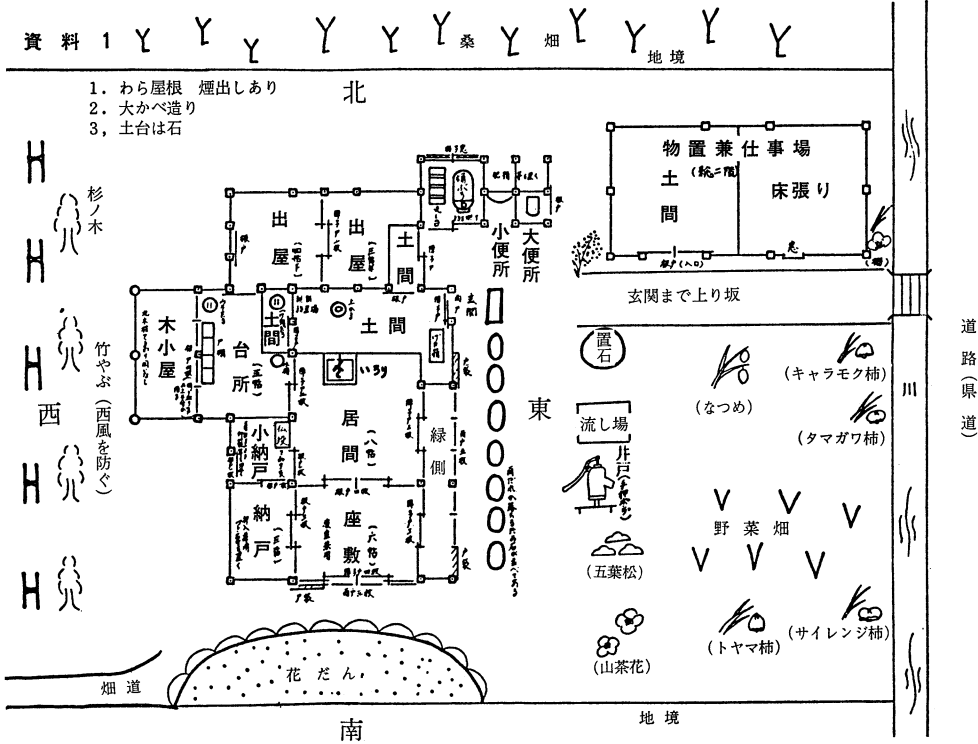


資料1 農家の例



た。間取図では特に一例立派なものがあつたので、模造紙に清書させ教室に展示した(資料1)。標準的な農家とわ

かるが、屋敷林や井戸等々、社会科学習にとつて多くの考察すべき問題が含まれていると思う。

資料2 年中行事

行事や祭礼の呼称	月・日(旧暦)	内容及び料理	着物
正月三が日	1月1日 ~3日まで	休養日、白米ご飯・塩びき、数の子・きんぴらごぼう、お煮しめ等家族揃ってコトツでトランプや手作りの羽子板で羽根つき。	男女共和服・緋入れ 袴天・ゲタ・雪ゲタ
農始め	1月11日	夜明けを待って田畑に行き土を盛り上げ松と餅を供えて一年の豊作を祈った。正月以来初めての変ご飯。	野良着 むずり袴天・ももひき・地下足袋
松おさめ	1月14日	午前1時におきて小豆がゆを炊き神棚に供え家族全員で食べ、少量の小豆がゆを手にとって顔や手にぬり出物・はれものしない様にと声に出して云い食事を終る。その後家の内・外から松をはずして小豆がゆをかけゴザに包み長男が持つて家のまわりをポッチと呼ばれるわらを固く束ねたものをつきながらハイハイの声と共にまわり近くの神社に収めた。	長着・羽織
節分	1月10日 新暦2月3・4日頃	大豆のからに煮干しの頭をさし戸口に打ちつけ厄除けとした。夕食後大豆を炒りマスに入れて神前に供え主人が鬼は外福は内とまいた。	
大早苗ぶり	7月1日(新暦)	田植えを終えた近在の村々が一緒に休んだ農休日。餅	少々さっぱりした 着物
盆踊り	7月13日~16日頃	近くの神社の境内にやぐらを組み二晩位老若男女すべて部落の人は踊りに加わった。	全員浴衣
二百十日	節分から数えて 二百十日目	秋の農繁期前の休み日。豆ざえ餅・小豆ご飯	
農業祭(品評会)及び演芸会	11月初め頃	大根・かぼちゃ・白菜・柿・さつまいも等各農家で作った物を持ち寄って批評し合った。夜は青年団による演芸会が催された。	
大晦日	12月31日	午前中に正月三日まで食べる物の準備家の廻り掃除山に行って門松お迎え、午後新しいお湯に入り長着と羽織に着替えてしめなわをない神棚に供え量の数かれた座敷で膳を囲んだ。	正月と同じ

また、ある生徒の母親は、農業を中心として見た年中行事の一部を資料2のようにまとめてくれた。伊達郡梁川町の例である。この表中、料理と着物の項を通して、「ハレ」と「ケ」の違いが明らかになる。「農業品評会」のことなどは、より具体的に聴き取らせれば、意義深いと考えられる。

戦後の生活の変化については、報告内容も豊富である。高度経済成長期に育った生徒たちゆえに、肉親の話は興味深かったようである。まさに「驚きや共感」を覚えたことが、感想文のなかに確かめられた。しかし、種々の事象に対する問題意識は概して薄い。報告内容を入念に分析し、『現代社会』の各場面で活用し、課題意識を育成していくことが、これからの仕事になっ